

輸血用血液の廃棄削減

——社会の財産としての血液

How to reduce waste blood products——property of society



松崎 浩史

Koji MATSUZAKI

東京都赤十字血液センター

◎日々の医療において輸血用血液はつねにある程度の余裕をもって準備されている。そのため、一定の廃棄が発生することはやむをえない。そのようななか、血液センターの事業目標は過不足のない供給であり、最近の血液センター内の赤血球製剤、血小板製剤の廃棄率は1～2%となっている。また、医療機関でも廃棄削減の努力がなされており、赤血球製剤の平均廃棄率は5～6%と低下傾向にある。しかし、院内の血液管理体制が整備されつつある大病院においても血液の廃棄率には格差があり、今後も改善の余地がある。また、中小病院では血液管理体制の整備だけでは廃棄削減に限界があり、病院間転用を行うことが解決策となる。そのためには院内だけでなく病院間での取り決めづくりや連携が重要な問題となることから、輸血医療に携わる人びとがたがいに協議していくことが必要である。